

5.24 三里塚へ

正午・岩山小学校跡地

動労集合同=10時 成田運転区

日刊 動労千葉

81.5.20

No. 744

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六・八・九(三三三)七二〇七

軍事大国化・憲法改悪にむかって反動と戦争態勢作りの攻撃を強める政府支配階級は三里塚二期工事強行着工！完成をもって、全国の労働者人民の闘う皆！三里塚闘争を圧殺せんとしている。

われわれは、こうした政府支配階級の手先としてわが動労千葉と三里塚反対同盟をはじめとする闘う労働者・人民への公然たる敵対と闘争破壊を行なう動労「本部」反動分子を絶対に許さず、「動労千葉基金運動」の全国津々浦々への拡大と組織化を通して、動労大改革！！戦闘的労働運動の再生・強化をかちとらなければならない。

三月ジェット決戦闘争の貫徹によって切り拓られた三里塚闘争勝利の新たな地平と展望をもって政府・空港公団の年内二期工事着工攻撃に対する闘いの突破口として五・二四三里塚現地集会の勝利へ向けて圧倒的結集をかちとらう。

軍事大国化攻撃の下での三里塚空港

軍事大国化と憲法改悪攻撃を強める政府支配階級は、三里塚空港の軍事使用も含む本格的な戦争準備体制作りを急ピッチで進めている。

「有事法制研究の中間報告」でも明らかのように戦前の国家総動員法や徴発令をも上廻る攻撃を強め、とりわけ、民間航空機と民間空港の軍事使用の必要性を公然と打ち出した攻撃を強めているのである。

又、「五五年度防衛白書」は、主要国の例として「有事においては、民間航空機輸送能力を軍用に転用する制度などにより航空輸送能力を確保している」とし、さらに、金丸元防衛庁長官が座長となり、元自衛隊幕僚長クラスが理事をしている「日本戦略研究センター」の提言(二月十四日)では、「民間空港を活用するため、その通信・燃料・弾薬施設や耐弾指揮所を整備する」というように三里塚空港をはじめ全国の空港をただちに軍事空港として転用するための準備が進められているのである。

三里塚二期着工攻撃こそは、三里塚空港を軍事空港として海外侵略の拠点としようとする具体的な軍事大国化攻撃であり、われわれは、この攻撃を絶対に許してはならない。

二期工事着工は、三里塚闘争つぶしの攻撃

三里塚農民の十六年間にわたる不屈の闘いは、労働運動の総体が右傾化し、政府・資本に屈服し、とりこまれていく中でわが動労千葉をはじめとする全国の闘う労働者人民の三里塚闘争を通しての新たな決起と流動化を確実に作り出している。従って、政府空港公団の二期着工攻撃は、反対同盟を解体し、三里塚闘争を破壊・圧殺することを通してしか出来ないものである。

われわれは、二期工事着工阻止、三里塚闘争勝利の展望を切り拓らいた三月ジェット決戦闘争の成果を一層うち固め、五・二四三里塚現地集会の圧倒的成功をかちとらなければならない。

「本部」反動分子の敵対を粉碎しよう

動労「本部」反動分子は、わが動労千葉の三月決戦闘争に対する公然たる敵対とスト破りに引き続いて国鉄当局の四名の不当解雇をはじめとする大量報復処分攻撃が出されて以降、「動労千葉のストライキは挑発であった」とか、「処分は当然だ」「支援基金運動に協力するな」などの極めて反動的なキャンペーンを行ない「動労千葉解体の絶好のチャンス」とばかりに敵対をくりかえしている。

われわれは、このような国鉄当局・権力の手先き動労「本部」革マル反動分子を絶対に許すことは出来ない。

われわれは、三月ジェット決戦闘争が作り出した全国的な流動化と新たな闘う潮流を「動労千葉支援基金運動」の拡大・発展を通して結集し、動労「本部」革マル反動分子を一掃し動労大改革！！戦闘的労働運動の再生をかちとらなければならない。

五・二四三里塚現地集会の圧倒的成功をかちとらう。

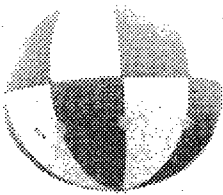
「二期着工阻止」5/3

小川源さん

大気球うち上げる

管制塔の足もと、木の根から「二期着工阻止

・芝山鉄道粉碎！」の大気球。



高さ四四メートルに、およぶこの気球こそ、源さんの心意気！

